

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、玄関、リビング等に掲示し、朝の申し送り時、理念を復唱し、意識づけをしながら実践につなげている。毎年職員でキャッチフレーズを考えサブテーマとして理念に沿って実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が住宅地にないため地域の一員として交流は行っていない。必要であるとは感じている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の福祉体験学習や高校生の介護実習の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日常の活動報告を行い、それに対しての意見をいただいている。その意見を活かしてサービスの向上につなげている。昨年度は家族から挙げた質問をQ&Aとしてまとめてみては？という意見をいただき、質問表作成をすることができた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村の担当者の方には、運営推進委員会に参加していただき、実情や行事等の報告をしている。会議の中で、様々な情報をいただき、また疑問点など尋ねたりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠をしないため入り口ドアに呼び鈴を付けてドアが開いたことが分かるようにしている。夜間や昼寝の際ベッドからの転落予防のために人感センサーを使用している方もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では絶対にあってはならないことと職員全員が認識している。特に言葉の虐待については気をつけるように心がけ、スタッフがお互いに注意しあいながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度について学ぶ機会はあるがしっかり理解できていない。現在活用していらっしゃる方はおられないがもし必要な方があった場合は活用できるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居が決定したら、契約をする前に契約書、重要事項説明書を渡し、目を通していただき、契約の日に説明をしている。その時に疑問点や不安点を伺うようにしている。改定の際には説明会を開催し、理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回の家族会や日常の面会時等に意見を伺うようにしている。また、家族の方へアンケートを実施し、意見や要望をいただいている。面会簿に意見欄を設け意見を書けるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は毎月1回の職員会議や個人面談時に伝える機会はある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や勤務状況をどこまで把握されているかは、分からないが、就業環境の整備には努めて下さっている。資格取得のための研修参加が出来るように、勤務調整をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全職員が参加できるようにしている。また、法人外の研修には交代で参加できるようにし、研修会に参加した時は、報告をし皆で共有できるようにしている。資格取得も推進し、講習会に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会は行っていない。系列のGHもあるので、定期的に勉強会や交流会を行っていききたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居していただく前に、本人様に逢いに行き、その時の状態や様子を伺うようにしている。また、入居された後は、コミュニケーションを多く取りながら、本人の声に耳を傾け不安なく過ごせるように努め、ここに居て大丈夫だと思っていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との良い関係を作っていくように、面会時であったり、電話で連絡したりと状況を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を基に、本人様の状態の把握をしながら、どのような支援が必要かを見極め、落ち着いて生活が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる力を発揮できるように、スタッフと一緒にすることで暮らしを共にする者同士の関係を築けるようにしている。居室の掃き出しや食器洗い、野菜切り、洗濯物干しやたたみ等。昔ながらの行事の食べ物（例えばちまき作り）作りや野菜の作り方(菜園)等教えてもらったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	桜の花見や運動会、また誕生日を一緒にお祝いする等、行事に参加していただくことで家族の絆を大切し、共に支えて頂いている。電話で声を聞かせてもらったり、他科受診に行ってもらったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく、地域の方等誰でも気軽に面会に来て頂けるようにしている。面会時は居室でお茶を飲みながらゆっくり過ごして頂いている。クリニック受診時や特養の行事、文化祭見学时等で馴染みの方に逢ったりされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見ながら、食卓の位置やソファでの座り場所を決めている。また、会話が弾む方同士で座っていただいたり、逆に相性の悪い方同士は目に入らない位置に座って頂いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援はないが、退居された方が同系列の特養の入所の場合は行事で逢った時には声かけしたりしている。また、入院の場合も時々逢いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の生活の中で、言動や表情から汲み取ったりまた本人の思いや希望を引き出すような声かけを行っている。意思や思いが表出できない方については、本人にとって良い状態で過ごせるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時にこれまで関係のあった方々から情報を頂き、これまでの暮らしの把握をするようにしている。また、本人との会話の中から把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常、生活されている様子を伺うことで、心身状態を把握しながら、本人とお話することで過ごし方や持てる力を見極めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等に家族の方とは話をし、意見を聞き、ケア会議にてスタッフの意見やアイデアをもらい、医療については、定期受診時に主治医に相談し、GHでより良く生活して頂ける様にあった計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人録を作成し、日常の生活の様子、身体の状態等を記録している。日常生活記録は、排泄の状況、食事、水分量、ケアプランのチェック等を記録している。申し送り帳や連絡帳を毎朝に出勤時に目を通し、情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ひとりひとりの取り巻く環境に合わせて、支援を行うようにしている。家族が遠方の方は、他科受診に行ったり、その時に必要な物の買い物を行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源のボランティアの受け入れを行っている。開設当初から来て下さっているボランティアグループもあり、様々な支援をもらっている。最近は踊りや唄等を披露して下さるボランティアグループにきて頂き、楽しみをもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際、ほとんどの方が同敷地内にあるクリニックにかかりつけ医を変更して下さっている。近くにあるということですのですぐに診て頂けることもあり、家族も安心されている。受診時は、職員が同伴し、症状を伝え、病院との連携を取り適切な医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員として在籍していない。隣設のクリニックへ気軽に相談ができ、様々な情報や気づきは、受診時や定期受診時に、Dr. や看護師に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には病院のソーシャルワーカーさんと情報交換をしながら、早期の退院が出来るようにしている。その方の状態や状況をうかがうために、面会に出かけ、話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアを行っていないため、入居の契約時に重度化した場合のあり方については説明を行っている。状況が変わってきた時はご家族と話し合いをしながら事業所として出来ることを伝えかかりつけ医と連携しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、定期的に訓練は行っていないが、一度起こった急変や事故の時はどのように対応したかをスタッフが共有し、次に発生した際に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は、昼間、夜間の想定で行っている。夜間時については地域の協力をいただき、訓練している。水害時には、同系列の特養への避難訓練を行っている。地震時の訓練を行っていないので計画していきたい。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドや誇りを損ねない言葉かけには十分気をつけながら、その方に合った言葉かけを行っている。誰が聞いても嫌な感じを受けない言葉かけをするように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出については、日常の会話の中から聞き取るようにしている。レクの選択や服選び等できるだけ、自己決定の場面を多く作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、朝、起きられない方の朝食を遅らせたり、入浴日を変更したりする等、一人ひとりのペースや体調に合わせた暮らし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は定期的に訪問にて行っている。行事の時にはいつもとはちょっと違う服を着て、おしゃれをして出かけるなどしている。また、日常的には、服の身だしなみには気をつけ、声かけしながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様にとってとても楽しみであるので、本日のメニューとして、入居者様書いてもらったものを表示している。食事の準備として野菜切り、食後は茶碗洗いやお膳拭きをして頂く等、職員と一緒にしている。夕食の献立を決め、一緒に買い物に出かけるクッキングデイを設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気によっては、食事量や水分量の管理が必要であるので、Dr.や管理栄養士に相談しながら支援している。献立は管理栄養士作成によるもので、栄養のバランスは取れている。月1回程度、給食委員会を開催し行事食や食材の検討を行っている。脱水症にならないよう水分確保には充分気をつけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせたケアが出来るように声かけ見守りを行っている。モアブラシを使用し、口腔内や舌みがきも支援している。義歯は毎日夜間に洗浄剤を使って洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時、リハビリパンツ使用の方が多いが、排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握したり状態を見ながら、リハビリパンツを綿パンツに変えていくようにしている。夜間は眠りや尿量を考え、リハビリパンツやワイドパットを使用し、失禁がないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、予防が出来るように、朝食前には牛乳、10時のお茶にはヨーグルトを提供し、また、水分摂取にも気をつけている。しかし、それでも、便秘を解消できない方は便秘薬を服用されている。排便状態を把握し、その方に合った服用にて排便に繋がるように調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉を引いてあり、1日置きの入浴を勧め、気持ちよく入浴されている。入浴の日には声かけを行い、できる方は着替えの準備をして頂いている。時間帯は職員で決めていることが多いが入浴の有無については、本人の状態や希望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の睡眠については、室温の調整や季節によって寝具の調整をしながら、安眠出来るように支援している。昼食後もベッドに横になり休息し、夜間の安眠に繋がるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は、目的や副作用については理解するように努め、変化がないか様子観察を行っている。服薬の誤薬がないように、二重、三重のチェックをし、口に入れられ飲み込まれるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活が出来るように野菜切り、茶碗洗い等役割を決め、持てる力を発揮して頂いている。また、外出やボランティア訪問による楽しみの機会を多く持てるようにしている。TVを見たり、ちぎり絵等の作品作りをされたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりのその日の希望に添った外出の支援はできていないが希望がある時には職員の体制を調整したりして支援が出来るようにしている。外出が出来るように初詣、桜の花見、お茶飲み等計画し支援している。お墓参りについては家族の協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが最近の入居時より本人が所持されている方はあまりない。小遣い程度は職員が預かっており、お金が必要な時はすぐに渡せるようにしている。外出時自分の財布から支払いできるようにしているが、機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話については希望があれば、電話をして頂ける様に支援している。ご家族から定期的に電話があり、話をされている方もある。年賀状は書かれ出しているが、その他の手紙についてはほとんど書かれていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節を感じられるように季節の花を飾り、季節に合った壁面作成をしている。共同空間が台所とつながっているため、調理する香りや音も感じられる。温度や湿度には注意を払い加湿器や空気清浄機も使用している。採光にも気をつけてカーテンで対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にはソファを置き、TVを見たり、会話を楽しまれたりしている。一人がよい方は食卓テーブルからTVを見られたりしている。相性の悪い方同士は顔が見えないようにする等腰掛けられる場所(位置)を考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまで自宅で使用されていたタンスや布団等、家族の写真や置物等を持ってこられ家族と居心地良い部屋作りをされている。TVを持ち込まれている方もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部のあらゆる所に手すりを設置してある。最近では車椅子使用の方があり、トイレのドア改修を行った。居室はその方にあった家具の配置や足マット使用等を行い、また、車椅子、押し車は、安全を意識して置き、移動の邪魔にならないようにしている。場所が分かるように表示をしたり、名前を掲げる等工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない